

野上記念法政大学能楽研究所

【2025 年度 大学評価総評】

自己点検・評価シート「1.改善・向上の取り組み」の「(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応」において、研究倫理の順守を図る取り組みについて、「全ての兼任所員・客員研究員が研究倫理教育を受講する体制を整備」し、既に運営を開始している点について高く評価できる。引き続き、本取り組みを継続されることを期待する。また、「(2) 改善・向上の取り組み(社会連携・社会貢献)」において、2024 年度はこれまでの取り組みに加えて、専任所員による日本芸術文化振興会公演活動等専門委員・調査事業委員など複数の委員を兼務、国立能楽堂における展示監修、メディアへの取材対応、能楽公演の解説などを通して、研究所・大学の存在価値を高めることに貢献しており、高く評価できる。

2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書において、「能楽資料総合デジタルアーカイブ」「金春家文書デジタルアーカイブ」の更新、および Japan Search との連携作業、さらには「英語版能楽全書」の刊行などの成果が報告されているのに続いて、2025 年度中期目標・年度目標においては、「能楽資料総合デジタルアーカイブ」の拡充、公募型共同研究の成果に基づく資料叢書の刊行、及び国際的なシンポジウムの開催等、具体的な達成目標を設けて、その実現に取り組む点は評価できる。これらの施策を通じて、学際的・国際的な能楽研究拠点と認識されることを期待する。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】(参考)

自己点検・評価シート「I 現状分析」の「基準 8 教育研究等環境」において、研究倫理の順守を図る取り組みについて、「今後、研究倫理の遵守を周知する何らかの方法を検討し、改善に努めたい。また、他の研究所での研究倫理の遵守を図る取り組みのヒアリングをも行い、情報収集に努める計画である。」との改善策が提示されている点は一定の評価はできるが、所員参加の会議において、また所員宛の文書により周知を図ることは比較的容易に実施できると思われるので、ぜひ前向きに検討いただきたい。

2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書において、「能楽資料総合デジタルアーカイブの実現」、「英語版能楽資料デジタルアーカイブ 54 点の画像データ、4 点の目録データのアップ」という成果が報告されているのに続いて、2024 年度中期目標・年度目標においては、「能楽資料総合デジタルアーカイブ」および「金春家文書デジタルアーカイブ」の拡充、さらには「英語版能楽全書」の刊行について具体的な達成目標を設けて、その実現に取り組む点は高く評価できる。これらの施策を通じて、能楽研究所が所蔵する膨大な能楽資料の網羅的横断検索が可能になり、学際的・国際的な能楽研究拠点と認識されることを期待する。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

評価結果でご指摘をいただいた「研究倫理の遵守を図る取り組み」については、研究開発センターより研究倫理教育プログラムに関する情報提供を受け、専任所員・兼担所員だけでなく、全ての兼任所員・客員研究員が研究倫理教育を受講する体制を整備した。2024 年度より運営を開始している。

また、評価結果総評において高い評価を得た「能楽資料総合デジタルアーカイブ」については、さらなる拡充に向けて、新たに国文学研究資料館やジャパニサーチとの連携を進め、質量と利便性の向上に努めているところである。「英語版能楽全書」は 2024 年内の刊行が実現した。この成果を踏まえ、今後、アジアとの連携に向けた新たな取り組みを計画中であり、それが実現すれば、国際的な研究拠点としての能楽研究所の存在意義は、さらに大きなものになるものと考えている。

(1) 改善・向上の取り組み(教員・教員組織)

研究所(センター)内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
---	--	-----------------------

るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。 ＜対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。＞	B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	い)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
≪内容≫		

(2) 改善・向上の取り組み（社会連携・社会貢献）

社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。 ＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに取り組んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
≪内容≫ 能楽研究所はこれまでも国立能楽堂をはじめとする能楽堂、東京国立博物館をはじめとする博物館・美術館と協力してさまざまな社会連携・社会貢献の活動を行ってきたが、近年その連携の範囲はさらに大きな広がりを見せている。2024年度の代表的な取り組みとしては、専任所員の2名がそれぞれ日本芸術文化振興会公演活動等専門委員・調査事業委員など複数の委員を兼務したほか、国立能楽堂の大規模な特別展である「宝生宗家展」の展示監修をつとめるなどした。メディアの取材対応(NHK、朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞など)、能楽公演の解説(国立能楽堂・観世能楽堂・矢来能楽堂など)にも積極的に関わっており、能楽研究所、ひいては法政大学の存在価値を高めることに貢献している。		

II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

研究所（センター）における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。 ＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
≪内容≫		

III. 2024年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	研究活動
中期目標	学際的・国際的な能楽研究拠点として、研究資源である貴重資料の公開や基礎研究を進めるとともに、より広い領域の研究者との協同プロジェクトを展開していく。
年度目標	「能楽資料総合デジタルアーカイブ」「金春家文書デジタルアーカイブ」をさらに拡充するとともに、従来目録が作成されていなかった未整理資料についても、書誌データの作成とデジタルアーカイブ上での検索が行えるような体制を整備する。また、国際的な能楽研究の推進のため、英語版の能楽資料デジタルアーカイブにもさらにデータを拡充する。
達成指標	「能楽資料総合デジタルアーカイブ」「金春家文書デジタルアーカイブ」の拡充のため、新たに画像 300 点以上、書誌データ 800 点以上をアップ。英語版能楽資料デジタルアーカイブに新たに 40 点以上の英語解説データをアップ。

年度 末 報 告	執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	「能楽資料総合デジタルアーカイブ」「金春家文書デジタルアーカイブ」を更新し、720 点以上の画像データ、1220 点以上の書誌データを追加するとともに、Japan Search との連携作業を進めた。また、Noh and Kyogen Rare Materials Digital Collections に新たに 50 点の英語解説データをアップした。
	改善策	特になし。
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		学際的・国際的な能楽研究拠点として、研究資源と研究成果を積極的に還元するとともに、能楽界とも連携を強め、能楽の発展と世界への文化発信に寄与するよう努める。
年度目標		国際的な能楽研究・能楽普及の推進のために、最新の研究成果を盛り込んだ英語版能楽全書を刊行するとともに、能楽の普及・研究成果の社会還元のための展示・セミナー・講座等を実施する。
達成指標		英語版能楽全書の刊行。普及・社会貢献のための展示・講座等を 5 件以上開催。
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	英語版能楽全書（上下 2 巻。全 1080 頁）は 2025 年 1 月に刊行。能楽研究所主催の能楽セミナー 2 回、能楽学会と共催の研究集会 5 回を開催。国立能楽堂での三期にわたる特別展（11 月 23 日～3 月 29 日）には所員が監修として全面的に協力。図録執筆のほか、関連講座での講演もおこなっている。この他、個別の能公演にかかわる事前講座等へも各所員が責任ある立場で多数参加。
	改善策	特になし。
【重点目標】 能楽研究所が所蔵する膨大な能楽資料の網羅的横断検索が可能な「能楽資料総合デジタルアーカイブ」の拡充と利用促進。 【目標を達成するための施策等】 専任所員だけでなく、兼任・兼担の各所員とも協同して、能楽研究所所蔵資料の書誌データの整備に集中して取り組むとともに、文科省機能強化支援の研究資金を積極的に活用し、RA の協力も得て、近代能楽雑誌のデジタル化と目次情報のデータ化を推進する。また、デジタルアーカイブのさらなる利用促進のため、ジャパンサーチとの連携についても検討を行う。 【年度目標達成状況総括】 達成指標の全てをクリアしただけでなく、それを大きく上回る成果をあげることが出来た。これらの実績により、文部科学省の認定する拠点「能楽の国際・学際的研究拠点」の第二期期末評価において「A」評価を得たほか、「能楽資料総合デジタルアーカイブ」と Japan Search との連携手続きの着手、拠点の第三期継続認定など、今後に繋がる展開も見られた。		

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	研究活動
中期目標	学際的・国際的な能楽研究拠点として、研究資源である貴重資料の公開や基礎研究を進めるとともに、より広い領域の研究者との協同プロジェクトを展開していく。
年度目標	国文学研究資料館等との連携による「能楽資料総合デジタルアーカイブ」のさらなる拡充、及び公募型共同研究との連携による研究活動の推進。
達成指標	「能楽資料総合デジタルアーカイブ」への新規データ追加 500 点以上。公募型共同研究の成果に基づく資料叢書の刊行。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学際的・国際的な能楽研究拠点として、研究資源と研究成果を積極的に還元するとともに

	に、能楽界とも連携を強め、能楽の発展と世界への文化発信に寄与するよう努める。
年度目標	能楽研究所の研究活動を踏まえた国際的なシンポジウム、研究成果に基づく展示・講座を開催するほか、能楽堂や日本芸術文化振興会の事業などに積極的に協力する。
達成指標	国際的なシンポジウムの開催。研究成果に基づく展示の実施。
【重点目標】 研究所の研究活動を踏まえた国際的なシンポジウムの開催 【目標を達成するための施策等】 ・シンポジウムに向けタスクフォースを立ち上げる。 ・国際シンポジウムのテーマは、能楽および能楽研究に関する情報発信と国際展開について、とする。 ・A Companion to Nō and Kyōgen Theatre（2025年1月刊行）の研究プロジェクトに関わった海外の研究者を招聘し、10年間の共同研究・共同作業の総括と今後の展開について議論する。 ・今後のアジア地域に向けての展開と中国語版能楽全書の刊行に向けてのセッションも設ける。 ・海外研究者招聘費用を含むシンポジウム開催にかかる予算は、特別事業予算・研究所研究助成金に拠る。	